

主の来臨のために準備する

(2)

主の委託と主の賜物において、忠信に奉仕する

聖書：マタイ24:45-51. 25:14-30

- I. マタイ第24章45節から51節が啓示していることは、わたしたちが主の委託において忠信に奉仕し、神を食物として神の家族に与えなければならないということです。それはわたしたちが来たるべき王国において、わたしたちの褒賞としてのキリストを獲得するためです：
- A. 神は一つの家庭と、家庭の行政、エコノミーを持っており、ご自身を食物として彼の家族に分与し、ご自身を表現させます——**I テモテ1:4. 3:15. エペソ2:19.**
- B. 神は、忠信で思慮深い奴隷を彼の家族の上に立てて、家庭の管理者、執事、供給の経路とならせ、定められた時に彼の民に食物を与えさせました——**マタイ24:45. I コリント9:17. エペソ3:2. I コリント4:1. I ペテロ4:10. ピリピ1:25.**
- C. 「食物を与える」とは、召会の中で、神の言葉とキリストを命の供給として、信者たちに供給することを指しています。命を与える霊としてのキリストは、わたしたちの食物であり、命の言葉の中に具体化され、実際化されています——**マタイ24:45. ヨハネ6:57, 63, 68. 使徒5:20 :**
1. わたしたちが主をわたしたちの霊的食物として享受して、他の人たちを養うことができるようになるためには、彼の言葉を祈り、黙想しなければなりません。また、注意深く考慮することを通して、それを味わい、享受しなければなりません——**エペソ6:17-18. 詩119:15. エゼキエル3:1-4.**
  2. わたしたちは祈りと言葉の務めに専心しなければなりません——**使徒6:4. II コリント3:6, 8. ヨハネ7:37-39. 参照、ヘブル7:25. 8:2.**
- D. わたしたちの心の中で、わたしたちの主人は来るのが遅れると言うことは、現在の邪悪な時代を愛して、主の出現を愛さないことです——**マタイ24:48. II テモテ4:8, 10. 参照、使徒26:16 :**
1. わたしたちはむさぼりに警戒して、自分のために宝を蓄えるのではなく、神に対して富まなければなりません——**ルカ12:16-20. II コリント6:10. エペソ3:8.**
  2. 「ロトの妻を思い出さない」は、この世を愛している信者たちに対する厳粛な警告です——**ルカ17:31-32. 参照、ローマ1:21, 25.**
  3. わたしたちは目を覚まして、祈り求めなければなりません。そうすれば、主の来臨の日がわなのように、突然わたしたちに襲いかかることはないでしょう——**ルカ21:34-36. 参照、マタイ2:3.**
- E. わたしたちの奴隷仲間を打ちたたくことは、信者仲間を虐待することです——**24:49前半. 使徒9:4 :**

1. わたしたちは、わたしたちの奴隷仲間を裁いたり、罪定めしてはならず、彼らに対して親切であり、情け深くあり、彼らを赦さなければなりません。それはちょうど、神がキリストにあってわたしたちを赦してくださったようにです——ルカ **6:37**。 エペソ **4:31-32**。
  2. わたしたちは、わたしたちの兄弟たちをののしったり、批判してはならず、彼らを自分自身よりすぐれていると思わなければなりません——ピリピ **2:2-4**, **29**。 ローマ **12:3**。
  3. わたしたちは、わたしたちの信者仲間の上に権力を振るってはならず、奴隷として彼らに仕え、命を与える霊としての復活したキリストをもって彼らを養わなければなりません——I ペテロ **5:3**。 マタイ **20:25-28**。 参照、民 **17:8**。
- F. 酔っ払いどもと食べたり飲んだりすることは、この世的な事柄で酔っ払っているこの世の人とつきあうことです——マタイ **24:49**後半。 参照、エペソ **5:18**：
1. 信者たちの神聖な性質と聖なる立場のゆえに、彼らは未信者と共にくびきを負うべきではありません。これは、結婚や事業だけでなく、信者と未信者との間のあらゆる親密な関係に適用されるべきです——II コリント **6:14**。 I コリント **15:33**。 参照、箴 **13:20**。
  2. わたしたちは若い時の欲から逃れて、純粋な心で主を呼び求める人たちと共に、すべてを含むキリストを追い求めなければなりません——II テモテ **2:22**。
- II. マタイ第25章14節から30節が啓示していることは、わたしたちが主の賜物において忠信に奉仕し、彼のために利益を得なければならないということです。それはわたしたちが来たるべき王国において、主の喜びに入るためです：
- A. 主はご自身を、外国(天)へ行こうとして、自分の奴隷たちに自分の財産を渡す人にとどまらず、「自分の財産」は、召会(エペソ **1:18**)とすべての信者を象徴しており、彼らは神の家族を構成します(マタイ **24:45**)。
  - B. 彼は、彼の奴隷たちのある者に五タラント、ほかの者に二タラント、ほかの者に一タラントを、それぞれの能力にしたがって与えました——**25:15**：
    1. タラントは、霊的な賜物(霊的な技能と能力)を表徴します——ローマ **12:6**。 I コリント **12:4**。 I ペテロ **4:10**。 II テモテ **1:6**。
    2. キリストのからだのすべての肢体は賜物を持っており、またすべての者が賜物です——ローマ **12:6**前半。 エペソ **4:7-8**。
    3. 「それぞれの能力」は、わたしたちの天然の能力を表徴しており、それは神の創造とわたしたちの学びから構成されます——マタイ **25:15**。 参照、使徒 **7:22**。
    4. タラントで商売をするとは、主がわたしたちに与えてくださった賜物を用いることを表徴します——マタイ **25:16-17**。 参照、I テモテ **4:14**。 II テモテ **1:6**。
    5. ほかのタラントをもうけるとは、わたしたちが主から受けた賜物を十分に用いて、何の損失も浪費もないことを表徴します——参照、**4:5**後半。
  - C. 一タラントの者は立ち去って地を掘り、主人の銀貨を隠しました——マタイ **25:18**：
    1. 地はこの世を象徴します。こういうわけで、「地を掘り」とは、この世とかわ

りを持ち、わたしたちが主から受けた賜物を埋めることを表徴します。

2. 「主人の銀貨を隠した」とは、主の賜物を用いず、地的な口実の下にそれを荒廃させることを表徴します。主の賜物を用いないどのような口実も、賜物を隠すことです。

D. 来たるべき王国において、主の賜物は怠惰な信者たちから取り去られます。そして彼らは外の暗やみに放り出されます。しかし、忠信な信者たちの賜物は増し加わり、彼らはキリストの享受の極みへと入ります——21, 23, 26-30節。

III. 「今日の召会にある問題はすべて、一タラントの者の上にあります。主はわたしたちに、賜物が五タラントを越える者は一人もないことを示してくださいました。二十年かけて、召会は五タラントの者を一人得るかもしれません。しかし、召会は毎日、それぞれ一タラントを持っている者を五人得ることができます。神の子供たちはだれであれ、最も貧しい状態の人でさえ、やはり一タラントは持っています。一タラントの者五人を一緒にするとき、それは五タラントの者一人に等しくなります。今日、召会の中で、一タラントの者がすべて自分のタラントを持ち出すなら、わたしたちの間で大きな賜物が多くいる必要はないでしょう。一タラントの者たちが出てきさえすれば、わたしはあなたがたに言いますが、全世界は征服されるでしょう」——ウオッチマン・ニー、教会生活をさらに語る、230ページ。